

## 《履修上の留意事項》面接授業のみ実施

初めての臨床体験であり自身の行動や社会性が問われる実習となるため、言葉遣いや社会的ルールを確認しておくこと。

《担当者名》○本家寿洋 岩瀬義昭 鎌田樹寛 近藤里美 坂上哲可 浅野雅子 浅野葉子 朝日まどか 木村恵 児玉壮志 桜庭聡 西出真也

## 【概要】

日程は、3日間の学内実習と2日間の学内オリエンテーションおよびセミナー発表会によって構成される（次年度可能であれば希望者対象に臨床での見学を実施する）。学内セミナーでは、臨床見学で習得した経験をグループで討議し、作業療法の実際について理解を深め、学生間で経験を共有し、プレゼンテーションする。最終的には、今後につながる学習課題を持ったレポートを作成する。

## 【学習目標】

本実習の目標は、臨床見学の代替授業授業と体験を通して、当該施設におけるリハビリテーションとその中に位置づけられる作業療法の概要と役割を主体的に学び、作業療法のイメージを具体化することである。

## 一般目標

1. 作業療法の各領域ごとの概要と役割を学ぶ。
2. 医療従事者としての節度ある態度を身につける。

## 行動目標

1. 作業療法士の役割を理解し、説明することができる。
2. 医療従事者として品位ある言動を身につける。
3. 対象者との適切な距離の取り方ができる。
4. 対象者の立場を理解し、適切な対応をとることができる。
5. 作業療法場面の観察や参加場面について、記録の取り方を学び、実施することができる。
6. セミナー発表での討論により、経験の共有ができる。

## 【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
	オリエンテーション	初めて作業療法が実施されている場面に臨むにあたり、そのための心がまえや、注意点などを確認する。	担当者全員
	臨床見学代替授業	本実習は、以下の4項目の習得を目的として、実施される。 代替授業を通して、リハビリテーション とその中に位置づけられる作業療法の概要と役割 を学び、作業療法のイメージを具体化すること。 対象者や多職種との関わりについて理解すること。 専門職としての基本的態度や姿勢を学ぶこと。 人との交流を通して、相手の立場に立って考えることを学び、コミュニケーション能力を培うこと。	担当者全員
	セミナー発表会	学生各々が臨床見学を経験した事に基づいたグループ討論をまとめ、プレゼンテーションする。	担当者全員

## 【評価方法】

教員評価及び、セミナー報告会の内容等を総合的に判断する（100％）。

## 【備考】

その他：「臨床実習の手引き」を配布する。

## 【学習の準備】

「臨床実習の手引き」を熟読し、必要な準備を行うこと。

## 【実習日程】

代替授業：2021年2月9日～12日、学内セミナー：2月15・16日

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（DP2）最新のリハビリテーション科学を理解し、保健・医療・福祉をはじめとするさまざまな分野において科学的根拠を有する専門技術を提供できる能力を身につけている。

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

（DP5）国際的および地域的視野を有するリハビリテーションの専門家として活躍できる能力を身につけている。

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および作業療法科学の開発を実践できる能力を身につけている。